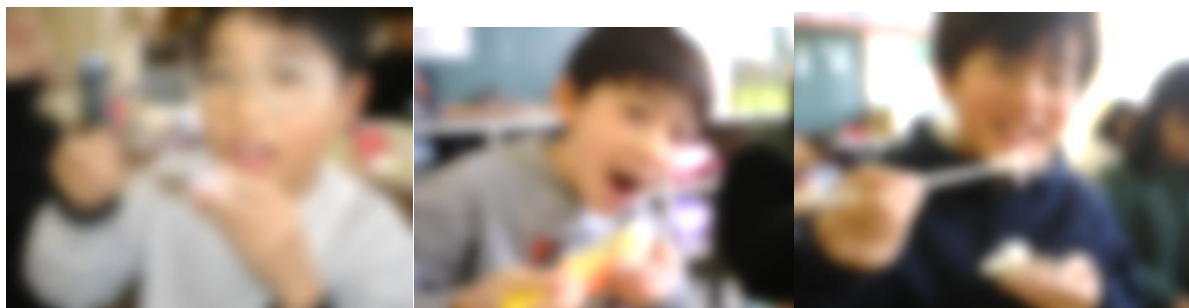
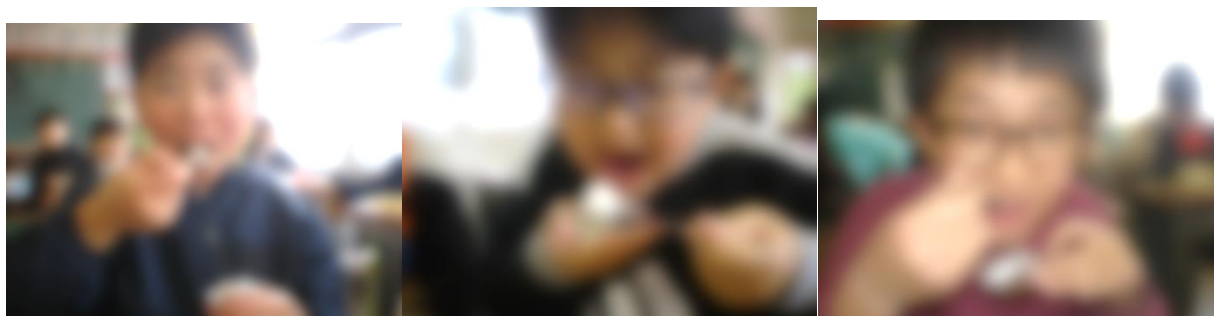


(家庭数配布)



お米を食べました！

5年生が、田植え、稲刈り、脱穀、粳摺りと作業を進めてきた米作り。先日、精米（これはお米屋さんにやってもらいました。）も終わりましたので、そのお米を炊いて教室に持って行きました。残念ながら田んぼの面積が狭いので、味見程度の量しかできないのですが、それでも美味しくいただきました。写真を撮りましたので、ご覧ください。



自分たちが作ったお米です。しっかり味わっていました！

「人権・平和の集いーはばたけ豊中の子どもたちー」に3年1組が出演！！

今月20日（土）、豊中市立文化芸術センターで開催された「人権・平和の集いーはばたけ豊中の子どもたちー」に本校3年1組が出演しました。演目は「みんながすきなもの」、お互いに認め合うことの大切さをダンスや歌、劇を通して表現することがねらいです。これに向けては昨年末から計画を練り、練習を積み重ねてきました。この取り組みを通して、子どもたちどうしの仲間づくりが一段と進んでいくことを期待したいと思います。



◇校長のつぶやきコーナー 「人を元気にすれば自分も元気に」

連日報道されている能登半島地震の被害の様子。ボランティアの受け入れ態勢も整っていない状況ですので、私たちにできることと言えば募金くらいでしょうか。なお、これに関わって、私が最近読んだ本の中で参考にさせていただければと思う記述がありましたので、紹介したいと思います。

ある病院の先生曰く、

「入院中、同室の人のお世話をよくする人は、病気が治りやすい。」

人は大きく2種類に分けられます。

A：相手が自分に何をしてくれるのか考えている人

B：自分が相手に何ができるのかを考えている人

Aの人は、他人の力で自分を元気にしてもらおうと思っています。反対に、Bの人は、いかに他人を元気にできるかと考えているわけです。Aの人も元気にはなると思いますが、しかし、常に他人の力に頼れるとは限らず、助けてくれる人がいなければ、その人はいつまで経っても元気にはなりません。

一方、Bの人ですが、「他人を元気にしようと様々に手を施しているうち、ふと気づけば、いつも間にか自分も元気になっている。」というのがこの本の著者の考え方です。確かにこの考え方、理にかなっています。他人を元気にするためには、自分も元気でなければならないからです。自分も周りの人もみんな元気、こんなハッピーなことはありません。「自分を大切にしながら、自分以外の人も」一なかなか難しいことかもしれません。でも、目指していきたいところではありますね。

メディアでは、被災地の方が苦しんでおられる様子とともに、全国、また世界各地からの支援も報道されています。前号の最後にも掲載したように「困った時はお互い様みんなで助け合いましょう！」なのです。保護者の皆様も、子どもたちも、可能な限りでかまいません。これを少しでも心に留めていただければ、私は幸いです。（「まずはお前が頑張れ。」という声も聞こえてきそうですが…。）